

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100299		
法人名	医療法人社団初心会		
事業所名	グループホーム	みたき	ユニット名 1F 樺
所在地	仙台市青葉区八幡7丁目14-17		
自己評価作成日	令和 1 年 9 月 15 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和1年 10 月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている方がそれぞれご自分の出来る事はお手伝いしていただきながら、日々の生活を送っていただいています。日々のおやつ作りも楽しんでいます。入居者様が安心して生活できる環境、また、ご家族様もいつでも訪ねてくれる明るい雰囲気づくりを目指して居ます。また、夏祭りなどのイベントも定着してきて楽しみにされている方もいるようです。また、今年の夏からホームで羊を飼うようになり、お子さんが寄ってくれたり今までよりもより地域の中での存在感を高めているものと思います

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームはJR仙山線葛岡駅から徒歩10分の所にあり、広瀬川を望める静かな環境にある。ユニット理念を基に「笑顔」を大切に、入居者に寄り添う支援を目指している。入居することで精神の安定が図られ、家族の面会が増えた。管理者は「入居者の希望は無理と思わず、どうしたら叶えられるか」を基本と捉えている。職員は調理方法など入居者から教えられることが多いと話し、寄り添う支援を行うことで自分達も喜びを感じ、支援の向上を目指している。羊を飼った事で入居者の楽しみが増え、子供たちが来るようになり、地域との交流が深まった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームみたき)「ユニット名 1F 樺 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分がして、されて納得できる医療福祉サービスの提供」の法人理念の実施を目標とし、ユニット目標の入居者様の声に耳を傾け、笑顔の絶えないホームを目指しています	開設時に法人理念を基に全職員でユニット理念を作成した。「法人理念とホーム理念」の研修を行い、初心に立ち返ると共に継続している。職員は入居者に楽しんでもらう支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや、花火大会、餅つきなどの近隣の方を招いたイベントでは、楽しみますとの声をかけていただけようになってきました。また、地域住民の方とも日常的に会話を交わしています	坂道の雪かきを行った事から交流が始まった。町内会の夏祭りはホームの駐車場で、子供や高齢者が楽しんだ。入居者は散歩しながら近隣の飼い猫や花を見たり、住民との会話を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方を招いたイベントでは、建物の中を公開したり、イベントや日頃の散歩などで地域の方との触れ合いを多くし、理解を得ていると思います		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で意見を参考にサービスの向上を図るとともに、日ごろからご家族との会話の中からサービスの向上に活かしています	年に6回、地域包括職員、町内会班長や役員、家族等が参加している。入居状況、インシデントとアクシデント、職員異動の報告がある。包括職員からインフルエンザの助言や身体拘束廃止の話等があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の研修会に参加し、情報を得ています。また、実地指導により、より良いケアの提供への協力関係が取れていると思います。	実地指導で指摘があり訂正した。防災に関して災害の種類に応じて状況を見極めるようにとの話があり、認識を新たにした。窓のストッパー設置時は介護保険課より、職員が開閉できれば良いと指導された。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間の施錠は行っていますがそれ以外の施錠は行っていません。来客の方が施錠されていないことに驚かれることもあります。法人自体が身体拘束をしないことを実践しているので、今後も研修会や拘束をしないケアについて理解を深めていきたいとおもいます	薬の調整で改善し表情が明るくなった。夜間帯に落ち着かない行動をする入居者の要因を探り、不安解消をすべく寄り添い解消した。実践に基づいたケアをすることで意識の向上になった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どういったことが虐待となるのか、普段のケアについてもスタッフと話す機会を設けています。事例を踏まえてよりわかり易いように虐待の防止に取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については研修を受けています。また、必要に応じて法人本部などと相談して対応していきます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて説明を行っていますが、ご家族へは積極的に声をかけさせていただき、不安や疑問点の解消につなげています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との話の中ででたことや、入居者様の要望を取り入れメニューを作ったり、外出を行ったりとホームでの生活に取組んでいます	家族の来訪時には、職員から進んで声を掛け日常生活を説明すると共に、意見や要望を聞いている。野球観戦は入居者の希望と家族の支援で毎年行っている。家族と連絡を取り合い化粧品や衣類を補充している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	こまめに職員とは話し合う機会を設け、提案があれば検討し、改善につなげられるようにしています。スタッフともなるべく話をし意見を出しやすいようにしています	左利きの職員の入社時に、左利き用の包丁を用意した。浴槽用椅子の購入や脱衣所の手すりを取り付けるなど応じた。資格取得時は費用補助や出勤扱いにする等している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事に対しては声をかけ、認めることで仕事への向上心を持ってもらえるように努めています。また、日ごろから体調の管理について声をかけています。シフトではなるべく休日の希望がかなえられるように配慮しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加の支援と、普段から認知症などの対応方法について職員と話し合っておりより良い対応ができるように支援を行っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な研修へ参加することにより横のネットワーク作りを進めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様、一人ひとりとお話をする中で、どんなことが不安なのかどんな要望があるかを聞き出せるように耳を傾けています。また、生活歴などもお聞き出来れば会話に取り入れより安心していただけるようにしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がどのような事が困っているのか、何を心配に思われているか、声をかけお話をすることで良好な関係を築けるに努めています。特に認知症は症状を踏まえたお話をすると安心されます		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要なのか職員同士で話し合い、情報を共有することでご家族、利用者様が必要とする支援を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様から職員が教わることも多くあり、一方的な介護にならない関係。出来る事はしていただきながら生活を送っていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とはこまめに会話を交わし、ご家族様の意向も聞きながらどのようなかわりが必要かを相談、提案できる関係づくりを築けるように目指しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔なじみの関係ができ、入居者様も楽しみにしている関係が出来ています	家族と旅館に泊まることを楽しみにしている方や、家族と散髪に行く方、墓参りに行く方がいる。開設5年目になり、入居者同士が自分の部屋で話し込んだり、「お休みなさい」と声を掛け合っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立することの無いように職員が間に入ったり、声を掛けゲームを行うなどしています。また、集団の中ではなく、個別に話を聴くなどの対応を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談にはいつでも乗れること、何かあれば電話連絡でも相談に乗れることをお伝えしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切に、希望や要望を聞きその方にとってよりよい生活を検討しています	入居者は様々な思いがあり入居者に寄り添うことで情報が得られる。クロスワードを一緒に考えたり、本人の代わりにどんと祭に行ったり、入居者と洋服を買いに行く等思いに寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントなどを行い生活歴の情報を収集し、スタッフ間で共有できるようにしています。また、ご本人との会話の中からも情報を得るようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察を行い、その日の体調や気分の変化への気づきを大切にしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	こまめに職員と話し合いを行い、ご本人の希望、ご家族の希望もふくめて課題検討を行っています	ケアマネジャーはミーティングや随時の気づき、主治医や歯科医、家族の意見を取り入れている。家族に説明し理解を得ている。入浴回数少ない方へ声がけの工夫を行い、シャワー浴と足浴することを盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきをケア記録に残して、次につながれるように努めています。また、普段と違う事も記録に残し介護計画に活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にその方にとってどうしたら過ごし易いか、話し合い柔軟な対応を行っていると思います		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	どのような事が支援できるかを地域連携の会などに参加して他の事業所の相談員とも検討し、支援を行っています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月3回の往診以外にも医療的、精神的な相談を行い適切な医療が受けられるように支援を行っています	入居者は協力医をかかりつけ医としている。協力医は月に3回往診があり、医療相談や緊急時の対応も行っている。ペースメーカーの点検等専門医受診は家族が付き添い、情報を交換している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職、訪問看護師と入居者様の状態について情報交換を行い、入居者様にとってよりよい状態となるように、また適切な受診が出来るように支援を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には、病院関係者と密に連絡を取り退院の時期やその後の対応についても情報を収集し、主治医につなげられるようにしています。また、ご家族へのフォローも大切にしています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時々状態をご家族と話し合い、主治医の意見も参考にご本人の希望も取り入れながら対応を行っています	入居時、文書で説明し、「重度化時対応希望書」で事前の意思確認をしている。重度化した時点で「看取り介護の定義」により再確認し同意をもらっている。終末期のケアについて、清拭や体位交換をすることで褥瘡もなかったことに、家族が納得した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について意見交換を行っています。今後は、より実践的な動きができる訓練を行っていききたいと思います		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し、その際は近隣の方にも声を掛けています。また、町内会の防災訓練にも参加し、協力関係を築いています	夜間想定を含み2回実施している。不参加職員は後日内容説明を受ける。運営推進会議に出席し、入居者と馴染みになっている町内会班長が参加し、見守役をしている。職員は「通報が難しかった」と話していた。	訓練予定表には反省の項目はあるが、記載が無い。次回への取り組みのために、反省の記録を整えることをお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様の尊厳を尊重しつつ、生活を楽しんでいただけるようにケアを行っています	1名のみ「お父さん」と呼んでいる。入居者が呼び始め、家族の了解を得ている。入居者の尊厳を尊重し、「馴れ馴れしくならない距離感」を保つようにしている。入室時はノックし、洗濯物は目に付かない所に干している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の食べ物の希望や誕生日には何が食べたいかなど希望をお聞きし、提供したり。外出の参考にしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者様の生活のペースを大事にしてホームでの生活を送っていただくように支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望も取り入れてネイルケアを行ったり、化粧品などの管理なども行い支援しています。入居者様からは好評です		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作成の時何が食べたいかをお聞きしたり、料理の盛り付けや下膳、食器を拭いたりするのを手伝って頂いています。おやつ作りも一緒に楽しんでいます	家庭菜園で収穫した野菜や近隣の差し入れを献立に取り入れている。誕生日に鰻が食べたいとの希望には外食し、カップヌードルが食べたいとの希望は献立に入れた。入居者は盛りつけ等手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握し、食事の量や水分の量を記録に残し、状態の変化により細やかな対応が出来るように心がけています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行い、介助が必要な方は介助を行い、口腔内の清潔保持を行っています。また、訪問歯科診療をとりいれ、専門的な意見も参考に口腔ケアを行って、清潔が保たれていると評価を受けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合わせて誘導を行い、トイレでの排泄を目指しています。スタッフとも排泄状況について情報交換を行いよりよい排泄環境を提供できるようにしています	こまめな誘導支援により、リハビリパンツとパッドの方が下着に小さなパッドになる等改善した方が多い。夜は安全安眠を優先している。汚れた衣類は「洗濯する」等の声をかけて、部屋やトイレで交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のマッサージや乳製品をとっていただき、腸内環境を整えるなどの取り組みを行い、排便を促すようにしています。また、こまめな飲水を進め脱水にならないように観察を行っています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんでいただけるように入浴剤などを入れて対応しています。入浴の時間は出来るだけ入居者様の意に沿えるようにしています	週に2回以上入浴している。好きな時間に入浴できるが、気分が変わらない早いタイミングで行っている。入浴習慣の少ない方は、職員との関係作りをもとに、着替え、足浴、シャワー浴と進めて入浴するようになった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて、休憩や睡眠をとっていただけるようにしています。夜間起きてこられた方に暖かい飲み物を提供するなどし、安心して休んでいただけるように支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の内容には常に確認できるようにし、また変化があった場合には用途や副作用についても看護師と中心に説明を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意とすることや、出来る事を一緒にしてもらおう事で生活の張り合いを持っていただけるように支援を行っています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様より話題に出たところや、しばらく出かけていないようなところへも企画をたてて外出しています	月担当職員が、年間計画をもとに行き先を決める。外出前に状況の下見に行く。定義山、大崎八幡神社、秋保等が好評である。全員が外出できるよう声かけ等工夫している。天気の良い日は、ホームの羊や、近隣の猫や花等を見ながら散歩している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に出かけたりしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや手紙の取次ぎなどを行っています。入居者様に手紙を書くことを支援したりしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾付や行事、話題をとり入れ、季節感を大切にしながらも気温や湿度にも気をつけ過ごし易い環境を提供出来るようにしています	季節毎に入居者と一緒に月見や葡萄などの作品を作り、ホールに飾っている。正月の絵馬、七夕の短冊には健康に関する言葉が多い。ホールや居室は日光が差し込み明るく暖かい。入居者は職員や入居者同士と会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と一緒に過ごしたり、一人での時間など入居者様に合わせた時間を過ごしていただけるように支援を行っています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでいただいたり、ご本人が過ごし易い環境をつくるように工夫をしています	収納棚と大きな鏡が備え付けられている。鏡は全身を写し、身だしなみのサポートとなっている。家族写真、化粧品、テレビ等がある。職員から一人ひとりに作成した誕生日プレゼントのブーケや、壁掛けがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりが出来る事を積極的にお手伝いしていただけるように支援を行っています。手伝いを行う事を楽しんでいただけるようにしています		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100299		
法人名	医療法人社団 初心会		
事業所名	グループホーム みたき ユニット名 2F 蕃山		
所在地	仙台市青葉区八幡7丁目14-17		
自己評価作成日	令和 元 年9月 15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 元 年 10月 10 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に入居者様の輪ができていて、歌声や笑い声が響いています。男性の入居者様が1名と少ないのですが、他の入居者様からも「お父さん」と呼ばれユニットのバランスを取っています。また、日々の生活の中で入居者様自身が出来る事を率先してお手伝いを行っています。イベントでは夜間の外出なども行っており、日々入居者様も楽しみながら、職員も一緒に楽しみを持ちながら生活を送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームはJR仙山線葛岡駅から徒歩10分の所にあり、広瀬川を望める静かな環境にある。ユニット理念を基に「笑顔」を大切に、入居者に寄り添う支援を目指している。入居することで精神の安定が図られ、家族の面会が増えた。管理者は「入居者の希望は無理と思わず、どうしたら叶えられるか」を基本と捉えている。職員は調理方法など入居者から教えられることが多いと話し、寄り添う支援を行うことで自分達も喜びを感じ、支援の向上を目指している。羊を飼った事で入居者の楽しみが増え、子供たちが来るようになり、地域との交流が深まった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームみたき)「ユニット名 2F 蕃山 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念のもと、ユニットの理念を共有し、実践につなげています	開設時に法人理念を基に全職員でユニット理念を作成した。「法人理念とホーム理念」の研修を行い、初心に立ち返ると共に継続している。職員は入居者に楽しんでもらう支援を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや、花火大会などのイベントを行い、みたきという施設がどんながいて、どんな雰囲気施設かを知っていただく機会を設けています。近隣のお子さんも多く参加していただけるようになってきました	坂道の雪かきを行った事から交流が始まった。町内会の夏祭りはホームの駐車場でを行い、子供や高齢者が楽しんだ。入居者は散歩しながら近隣の飼い猫や花を見たり、住民との会話を楽しんでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の生活を見ていただいたり、イベントなどに参加していただくことで認知症の方の理解を得られていると思います			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では普段の生活の様子や、イベントの様子を報告を行うとともに、インシデント、アクシデント報告も行っています。参加された方の意見を参考に業務にとりいれたりしています	年に6回、地域包括職員、町内会班長や役員、家族等が参加している。入居状況、インシデントとアクシデント、職員異動の報告がある。包括職員からインフルエンザの助言や身体拘束廃止の話等があった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	仙台市で開催される研修会や実地指導を通して、疑問の解消やより良いケアの提供に活かせるよう取り組んでいます	実地指導で指摘があり訂正した。防災に関して災害の種類に応じて状況を見極めるようにとの話があり、認識を新たにした。窓のストッパー設置時は介護保険課より、職員が開閉できれば良いと指導された。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践、また研修を行い拘束をしないことをスタッフの共通の意識として取り組んでいます。また、何が拘束、虐待にあたるかも研修を通してスタッフへの理解を進めています	薬の調整で改善し表情が明るくなった。夜間帯に落ち着かない行動をする入居者の要因を探り、不安解消をすべく寄り添い解消した。実践に基づいたケアをすることで意識の向上になった。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待になるのかをスタッフと共に考え、虐待に至る前の不適切なケアについても検討しています。また、時事ニュースなどで虐待のニュースがあれば記事をもとにスタッフと話し合いを行っています			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修会へ参加し成年後見制度やその他の制度について学ぶ機会を持っています。また、本部の相談員とも連携を取っていきます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には説明を行い、普段から積極的に声を掛け不安なところや疑問点を確認しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、提案があればホームの運営に反映させ、よりよい環境づくりを目指しています	家族の来訪時には、職員から進んで声を掛け日常生活を説明すると共に、意見や要望を聞いている。野球観戦は入居者の希望と家族の支援で毎年行っている。家族と連絡を取り合い化粧品や衣類を補充している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング定期的に行いスタッフの意見を出してもらい、改善につながる場所は改善につなげられるようにしています	左利きの職員の入社時に、左利き用の包丁を用意した。浴槽用椅子の購入や脱衣所の手すりを取り付けるなど応じた。資格取得時は費用補助や出勤扱いにする等している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの業務の実績を認めることや、体調の変化に気を配っています。また、話をすることで不満に思っていることを理解しようとしています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の受講などを進め、技術、知識の向上を図っています。また、質問があった場合には対処方法などを話しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加し、他の事業所の取り組みや、横のつながりをつくる機会を設けています。地域連携の会に参加してきたことで認知度が上がってきているように思います		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくり入居者様と向き合う事で困っていることや不安、不満などを聞き出しより良い環境を作れるように努めています。また、スタッフもより良い関係を構築出来るように検討しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	積極的に声を掛けることでご家族様が疑問に思っていることや、不安の解消に繋がるように関係づくりを進めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	観察を行う事で、何が必要なのかの見極めを行っていきます。入居者様やご家族が不安に思っていることを少しでも解消できるように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来る事は積極的に参加していただき、生活を共にする関係を築いています。入居者様同士も声をかけあい生活を送っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様とご家族の関係を大切にしながら、協力関係を築けるように努めています。ご家族への声かけを積極的に行っています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が訪ねてこられる関係を大切にしています。面会の方も頻繁に訪ねてきてくれています	家族と旅館に泊まることを楽しみにしている方や、家族と散髪に行く方、墓参りに行く方がいる。開設5年目になり、入居者同士が自分の部屋で話し込んだり、「お休みなさい」と声を掛け合っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人を尊重しつつ、孤立しないように、職員が間に入ってきっかけを作ったり、入居者様同士でも交流を持っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談は随時受けるようにしています。ご家族様へのフォローを大切にしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切にし、ご本人の希望をお聞きし何が必要なのか把握できるように関係づくりを進めています	入居者は様々な思いがあり入居者に寄り添うことで情報が得られる。クロスワードと一緒に考えたり、本人の代わりにどんと祭に行ったり、入居者と洋服を買いに行く等思いに寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	食後の口腔ケアの支援を行い、介助が必要な方には介助を行って口腔内の清潔保持を行っています。訪問歯科の方からも助言をいただきながら行い、口腔内の環境は改善しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居様それぞれの生活の仕方、性格、心理状態を観察し、どのような事が出来るかを把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様本人の意向を取り入れ、スタッフとも現在の状況を意見交換しに介護計画を策定できるように目指しています	ケアマネジャーはミーティングや随時の気付き、主治医や歯科医、家族の意見を取り入れている。家族に説明し了解を得ている。入浴回数の少ない方へ声がけの工夫を行い、シャワー浴と足浴することを盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りを利用し、情報の共有や、新たな気づきを見つけられるように日々観察を行い、介護計画の見直しにつなげています。ミーティングでの意見交換も役立っていると思います		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの入居者様のニーズに合わせた柔軟な対応を行い、入居様により良い生活環境が提供できるように取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの方や他の相談員との連絡、地域連携の会への参加などで相談を行い支援の連携を行っています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とこまめに医療相談を行い、入居者様、ご家族へも医療面での不安を軽減できるように支援を行っています	入居者は協力医をかかりつけ医としている。協力医は月に3回往診があり、医療相談や緊急時の対応も行っている。ペースメーカーの点検等専門医受診は家族が付き添い、情報を交換している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護職、往診の看護職とも情報の交換、相談を行い適切な看護が受けられるよう支援を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連携を取り入院中の経過や退院へ向けての相談を行い、その後のフォローに活かせたらと考えています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の方針をお聞きすることでご家族様へ考えるきっかけを作り、その時の状況に合わせてこまめにご家族と話し合いを行っています	入居時、文書で説明し、「重度化時対応希望書」で事前の意思確認をしている。重度化した時点で「看取り介護の定義」により再確認し同意をもらっている。終末期のケアについて、清拭や体位交換をすることで褥瘡もなかったことに、家族が納得した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や、緊急時の対応への訓練を行って、実践力を高めていきたいと思いません		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練をおこない避難方法の確認と消防設備の取り扱いを確認しています。緊急連絡網などで情報をやり取りしています	夜間想定を含み2回実施している。不参加職員は後日内容説明を受ける。運営推進会議に出席し、入居者と馴染みになっている町内会班長が参加し、見守役をしている。職員は「通報が難しかった」と話していた。	訓練予定表には反省の項目はあるが、記載が無い。次回への取り組みのために、反省の記録を整えることをお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様の尊厳を尊重し楽しんで生活していただけるようにケアにあたるように努めています	1名のみ「お父さん」と呼んでいる。入居者が呼び始め、家族の了解を得ている。入居者の尊厳を尊重し、「馴れ馴れしくならない距離感」を保つようにしている。入室時はノックし、洗濯物は目に付かない所に干している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様お一人お一人要望をお聞きしたりして思いを実現できるようにご家族、スタッフと働きかけを行っています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のそれぞれの生活のペースを大切にし支援を行っています。ただ、部屋にもりきりにならないようレクリエーションなどを行い、自主的に参加をしていただけるようにしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ネイルケアなどへも取り組んでいます。また、お化粧をする方には、肌荒れが無いようにスタッフが声かけを行い、寝る前にお化粧を落としてもらっています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のメニューやお好みをお聞きし献立作りを行っています。一緒に献立を考えていただくこともあります	家庭菜園で収穫した野菜や近隣の差し入れを献立に取り入れている。誕生日に鰻が食べたいとの希望には外食し、カップヌードルが食べたいとの希望は献立に入れた。入居者は盛りつけ等手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、毎日の食事の量や水分の量を把握し、時々病院の管理栄養士にも相談したりして支援を行っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの支援を行い、介助が必要な方には介助を行って口腔内の清潔保持を行っています。訪問歯科の方からも助言をいただきながら行い、口腔内の環境は改善しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	軽失禁パットで対応できる方はオムツまで行かずに生活されています。また、トイレ歩行の時にふらつかれる方もいるので職員が見守りを行いトイレ排泄の支援を行っています	こまめな誘導支援により、リハビリパンツとパッドの方が下着に小さなパッドになる等改善した方が多い。夜は安全安眠を優先している。汚れた衣類は「洗濯する」等の声をかけて、部屋やトイレで交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多くメニューに取り入れたり、運動や水分を多くとっていただくようにこまめに声かけを行っています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ入居者のご希望に応え、入浴を楽しんでいただけるように支援を行っています	週に2回以上入浴している。好きな時間に入浴できるが、気分が変わらない早いタイミングで行っている。入浴習慣の少ない方は、職員との関係作りをもとに、着替え、足浴、シャワー浴と進めて入浴するようになった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活習慣を大切に、その時の体調や希望に添って休める環境を整えるように支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の変化が有る時にはナースを中心に随時説明を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様の嗜好を理解し、気分転換等が図れホームでの生活が楽しめるように支援を行っています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて外出の企画を立て外出を行ったり、ご本人の希望を聞き対応を行っています	月担当職員が、年間計画をもとに行き先を決める。外出前に状況の下見に行く。定義山、大崎八幡神社、秋保等が好評である。全員が外出できるよう声かけ等工夫している。天気の良い日は、ホームの羊や、近隣の猫や花等を見ながら散歩している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物などへ出かけ、一緒に物を選んだり、神社へのお参りではお賽銭をあげてもらったりしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしたり手紙の取次ぎを行っています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけやイベント、食事の提供により生活感、季節感を取り込んだ生活を送っていただけるように工夫をしています	季節毎に入居者と一緒に月見や葡萄などの作品を作り、ホールに飾っている。正月の絵馬、七夕の短冊には健康に関する言葉が多い。ホールや居室は日光が差し込み明るく暖かい。入居者は職員や入居者同士と会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者様の状況を把握し人間関係づくりの支援や思い思いに過ごせる空間づくりが出来るように努めています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が過ごし易い環境を作れるように工夫を行っています。使い慣れた化粧台を持ち込まれた方もいらっしゃいます	収納棚と大きな鏡が備え付けられている。鏡は全身を写し、身だしなみのサポートとなっている。家族写真、化粧品、テレビ等がある。職員から一人ひとりに作成した誕生日プレゼントのブーケや、壁掛けがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が安心安全に過ごしていただけるように残存能力を活かした生活が送れるように支援を行っています		